

埼玉トヨペット Green Brave



2021 RACE REPORT

AUTOBACS SUPER GT Round 2

たかのこのホテル FUJI GT500km レース

2021年5月3日(月)~4日(火)

富士スピードウェイ(静岡県小山町)

#52 埼玉トヨペット GB GR スーブラ GT

■ ■ ■ ■ トップ走行中に痛恨のスローダウン。悔しい 27 位 ■ ■ ■ ■

SUPER GT の第2戦が富士で開催されました。予選日の天候は晴れ。公式練習では吉田→川合→吉田の順に走行。タイヤの評価と車体の調整を行います。ベストタイムは吉田選手がマークした1分36秒791(6位)。昨年、富士で2勝をあげたGR スーブラ GT のパフォーマンスは依然として高く、上位進出に期待が高まります。Q1のドライバー、吉田選手は4周目からアタックを開始し、5周目に1分36秒413をマーク。4位でQ1を突破し、川合選手につながりました。Q1終了後、約40分後に行われたQ2。川合選手が予選開始の合図とともにコースイン。4周目に1分36秒005のトップタイムをマークし、さらにアタックを続けますが、わずかに更新ならず。3台のライバルが川合選手のタイムを上回ったため、正式結果は4位となりました。

決勝日の天候も晴。レース距離は2年ぶりの500kmで、1人のドライバーが3分の2以上走ることはできません。硬めのタイヤでスタートすることになったチームは、タイヤ1回交換を前提とした3スティント作戦を選択。スタートドライバーに吉田選手を起用します。2周のフォーメーションラップの後、決勝レースがスタート。ピットではスポッターの平沼が、場内モニターのチャンネルを切り替えながらドライバーにコースの情報を送ります。吉田選手は後続に抜かれ、5位で1周目を終了。すぐにセーフティカーが導入され、7周目からレース再開。吉田選手は2台のGT-Rに挟まれながら5位を走行します。1位から5位の吉田選手までがトップ集団を形成し、レースは進行。24周目、吉田選手が上位陣の先頭をきってピットに入ります。作戦通り給油のみを行い、川合選手に交代。川合選手は20位でコースに復帰します。川合選手のペースは良好で、ライバルがピットに入りはじめた30周過ぎから順位が上がります。35周目に7位、36周目に6位。38周目には直線スピードに優れる#10GT-Rに競り勝ち、5位に上がります。その後も攻勢は続き、44周目にトップへ。川合選手は2位との間に20秒近いリードを築き、63週の終わりにピットイン。店舗メカニックが給油とタイヤ交換を素早く行い、吉田選手に交代します。吉田選手は11位でコースに復帰。上位はみなピットインを残しているため、実質的なトップです。73週の終わりに上位3台が同時にピットに入り、吉田選手は作戦通りトップに復帰。2位のマシンが追い上げているものの、3位と接戦になっており、吉田選手は後続との距離を測りながら力走を続けます。しかし、このまま逃げ切りと思われた97周目、吉田選手が突如スローダウン。そのままピットに入ります。店舗メカニックが車体後部のカウルを外し、トラブルの発生箇所を確認しましたが、短時間での修復は不可能と判断。再スタートはかなわず、正式結果は完走扱いの27位となりました。

決勝結果 (GT300)

#52 埼玉トヨペット

Green Brave GR スーブラ GT
(吉田広樹/川合孝汰)

決勝: 27 位

(97周、2時間55分01秒422)

予選: 4 位

(Q2: 1分36秒005)

GT300 決勝結果

順位	車名(車両)	周回数
1位	SYNTIUM LMcorsa GR Supra GT (トヨタ GR スーブラ GT)	103
2位	SUBARU BRZ R&D SPORT (スバル BRZ GT300)	103
3位	ARTA NSX GT3 (ホンダ NSX GT3)	103
4位	LEON PYRAMID AMG (メルセデス AMG GT3)	103
5位	GAINER TANAX with IMPUL GT-R (日産 GT-R NISMO GT3)	102
6位	JLOC ランボルギーニ GT3 (ランボルギーニ ウラカン GT3)	102
27位	埼玉トヨペット GB GR Supra GT (トヨタ GR スーブラ GT)	97

天候: 晴 路面: ドライ ※トップ6まで(出走29台)



DRIVERS VOICE

吉田広樹選手



(予選後) 今回はレースが長いので、タイヤ選びを予選より決勝に合わせました。タイム的にもうちょっといきたかったという気持ちはありますが、今のところは予定通りに進められていると思います。がむしやに予選1位を狙うことが絶対ではありません。ぼくたちの強みはレースですし、決勝は去年なかった500km。そういう意味でも今のところいい感じだと思います。

(決勝後) 去年はこういうトラブルが出ませんでした。今後に生かすしかないと思っています。急に駆動が抜け、まっすぐ走らなくなりました。通常だったらすぐにピットに入るところですが、順位と残りの周回数を考え、走り切りたい気持ちがありました。もう1周いったのですが、状況はどんどん悪くなり、とても走れるような状況ではありませんでした。スタートから作戦通りでしたので、あそこまでは順調でした。

川合孝汰選手



(予選後) 最低限狙いたいところ、トップ5をとれたので良かったと思います。去年の開幕戦も4位からスタートし、そこから優勝しています。ただ、今回はレースが長く、戦略的な幅がとれるので、ピット作戦とかで自分たちがリスクをおかさずに、前に上がっていけるような展開を作っていきたいと思います。狙うはもちろん優勝です。クルマの方向性もいいところに来ているので、しっかりとチームと打ち合わせをしながら、明日に向けて戦略を練って準備したいと思います。

(決勝後) チームのみなさんといいい方向に進んでいたのですが、残念ですね。今はなかなか気持ちが切り替えられませんが、ぼくらは今年、チャンピオンを獲得するために戦っています。取りこぼしなくいきたかったのですが、しっかり原因を見つけて、次戦またいいレースができたと思います。



チームランキング GT300

順位	ゼッケン	チーム名	ポイント
1位	56	KONDO RACING	30
2位	60	LM corsa	29
3位	65	K2 R&D LEON RACING	29
4位	61	R&D SPORT	21
5位	55	ARTA	15
6位	52	埼玉トヨペット Green Brave	15

トップ6まで



PARTNERS



アルパインマーケティング株式会社



株式会社エヌ・ティ・コーポレーション



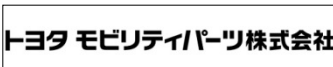
株式会社 Team lwakiri Japan



埼玉スリーボンド株式会社



株式会社 TAN-EI-SYA WHEEL SUPPLY



トヨタモビリティパーツ株式会社



株式会社 ドーム



株式会社デイトナ・インターナショナル



株式会社ハッピーライフ彩生

※50 音順

第3戦は5月29日～30日 鈴鹿サーキット(三重県)